

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校国語】

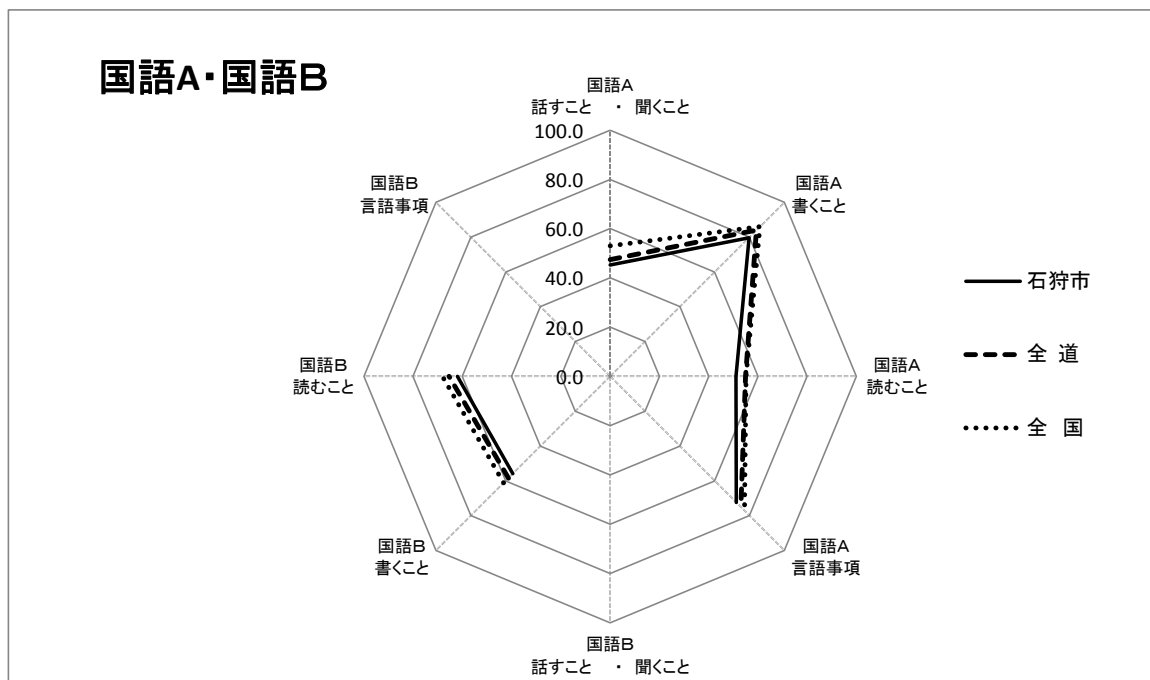
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.8問/14問	70.0%	5.9問/9問	65.4%
全道(公立)	9.5問/14問	68.1%	5.7問/9問	63.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ同様) (上位)	同様	(ほぼ同様) (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ同様) (上位)	同様	(ほぼ同様) (下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆			○						☆		○		

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 国語Aは全道平均よりやや低く、全国平均よりも低い結果となりました。国語Bについては全道平均とほぼ同様(下位)で、全国平均よりも低い結果となりました。
- 国語Bの平均正答率は平成25年度から年々高くなってきています。
- 各設問での無解答率は、A問題で全国(3.6%)・全道(4.0%)より高く石狩市は4.5%でした。B問題では、市内各校の平均が石狩市7.9%で、全道(7.5%)・全国(6.1%)よりも高い結果でした。

国語 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・文の中の主語及び主語と述語との照応関係を捉える。
- ・提案の内容に対する聞き方の様子から、聞き方の工夫として適切なものを選択する。
- ・説明する文章の書き方の工夫として、具体的な事例を挙げて書くことを選択する。
- ・新聞のコラムを読み、文章全体の構成や引用箇所を捉える。
- ・設問数は、14問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと」「聞くこと」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国に比べ相当低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道と比べやや低く、全国に比べ低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道や全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）で、全国に比べやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨		設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
読むこと	7	作品応募の案内の中から、必要な情報を読み取る	応募のきまりを守っていないものを選択する	72.2%	74.0%	73.9%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1 — (2)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	漢字を読む (自分の信念をつらぬく)	95.5%	96.3%	96.0%
	1 — (2)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	漢字を書く (鳥のすを観察する)	79.1%	73.8%	76.5%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨		設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
読むこと	5 —	新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する	49.7%	57.9%	59.5%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2 —	文中における主語を捉える	文の主語として適切なものを選択する	37.9%	47.8%	53.1%

〈指導の改善にあたって〉

・文章を読んで表現の工夫を捉えたり、引用している言葉を的確に捉えることに課題があります。国語の授業の中で、表現の工夫されている文を見つけたり、文や語句を引用する体験を通して理解を深めることが大切です。

・文の中の主語を捉えたり、主語と述語の照応関係を捉えることに課題があります。主語と述語は文を書く上でも文章を理解する上でも基礎となるものです。一行文を書いたり、物語文の読解指導などで意識的に主語と述語を取り上げ指導していく必要があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・目的や意図に応じ、新聞の割り付けをしたり、見出しや記事を書いたりする。
- ・目的に応じ、説明的な文章における中心となる語や文を捉えるとともに、文章と図とを関係付けて読む。
- ・物語の登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えるとともに、登場人物の気持ちの変化について想像しながら音読する。
- ・設問数は9問です。

【各領域の傾向】

- ・「書くこと」の領域は、全道に比べほぼ同様（下位）の傾向で、全国に比べ低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道に比べやや低く、全国に比べ低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	1 ニ 目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	69.0%	69.0%	70.8%
読むこと	2 ニ イ 目的に応じ、中心となる語や文を捉える	言葉の意味に合う言葉として適切な内容を書き抜く	82.9%	84.3%	86.0%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと	1 三 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く	30.1%	33.1%	34.7%
書くこと 読むこと	2 三 文章と図とを関連付けて、自分の考えを書く	楽器の分担の決め方について、【楽器分担図】を基にして書く	34.5%	37.7%	41.6%

〈指導の改善にあたって〉

- ・目的に応じ取材した内容を整理しながら文章（記事）を書くことに課題があります。読み手に伝えたいことをはっきりさせ、調べたことや取材した事柄を整理させながら、実際に新聞づくりを通して理解させていく必要があります。
- ・文章と図とを関連づけて自分の考えを書くことに課題があります。授業において図やグラフと照応させながら文章を理解させ、その都度自分の考えをしっかりと書く指導を繰り返し取り組み定着させていく必要があります。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の61.8%、全国の61.1%に対して石狩市は52.6%で、全道より9.2ポイント、全国より8.5ポイント低くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.3%、全国の92.0%に対して石狩市は89.3%で、全道より3.0ポイント、全国より2.7ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の81.2%、全国の82.0%に対して石狩市は77.3%で、全道より3.9ポイント、全国より4.7ポイント低くなっています。

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校算数】

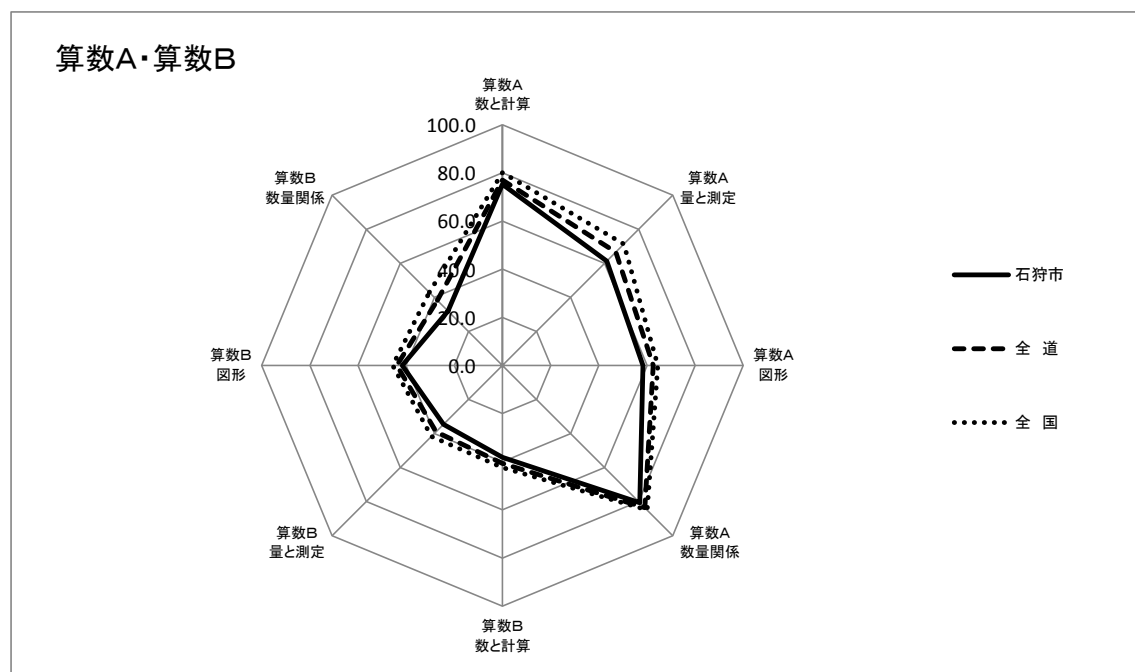
□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	12.0問/16問	75.2%	5.9問/13問	45.0%
全道(公立)	11.6問/16問	72.3%	5.5問/13問	42.5%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆				○					☆					○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 算数 領域別正答率比較グラフ □



□ 算数科の概要 □

- 市内各校の正答率は、全道・全国との差が平成26年度よりも広がりました。
- 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の中で、A問題では「量と測定」が、B問題では「数量関係」が全道・全国との差が大きい結果となりました。
- 無解答率については、A問題で全国(1.8%)・全道(2.5%)より高く石狩市3.1%でした。B問題では、石狩市12.6%で、全道(11.6%)・全国(9.1%)よりも高い結果でした。
- 問題形式の正答率では、B問題で選択式が短答式・記述式に比べ全道・全国と同様の結果でした。

算数 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・計算の結果のおよその大きさとしてふさわしい数値を選ぶ。
- ・ 180° より大きい角の大きさを求める。
- ・示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選ぶ。
- ・示されている事柄を読み取ることができるグラフを選ぶ。
- ・設問数は16問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道と比べほぼ同様（下位）の傾向で、全国と比べるとやや低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道よりも低く、全国と比べると相当低く課題があります。
- ・「図形」の領域は、全道よりやや低く、全国と比べ低い傾向を示しています。
- ・「数量関係」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	2 (1) 繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる	$28 + 72$ を計算する	99.1%	98.2%	98.2%
量と測定	3 日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる	午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める	69.5%	71.7%	74.8%
数量関係	7 グラフに表されている事柄を読み取ることができる	ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけであることを示しているグラフを選ぶ	78.2%	80.9%	81.8%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と計算	2 (4) 除数が整数である場合の分数の除法を計算することができる	$5 \div 6 \div 7$ を計算する	64.8%	72.7%	84.2%
量と測定	4 (2) 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求めることができる	分度器の目盛りを読み、 180° より大きい角の大きさを求める	43.6%	51.4%	58.0%
図形	5 (1) 示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ	43.9%	48.9%	50.6%

〈指導の改善にあたって〉

- ・「数と計算」では、末尾の位の異なる小数の足し算や引き算に課題が見られます。小数の仕組みや数の相対的な大きさに着目して計算の仕方を考えたり、結果を振り返って確かめたりできるように指導する必要があります。計算に慣れるため繰り返し学習する必要があります。
- ・「量と測定」では、 180° より大きい角の大きさを求めることに課題が見られます。授業では、角の大きさの見当をつけ、分度器を用いて確実に角度が測定できるように繰り返し指導する必要があります。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・ 日常の事象の解決に図形を見だし、その性質を記述する。
- ・ 基準量、比較量、割合の関係を基に、示された求め方の誤りを指摘し、正しい求め方を記述する。
- ・ 図形の性質を基に、示された角の大きさが 30° になる理由を記述する。
- ・ 概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、その判断の理由を記述する。
- ・ 設問数は13問です。

【各領域の傾向】

- ・ 「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・ 「量と測定」の領域は、全道よりやや低く、全国と比べ相当低く課題があります。
- ・ 「図形」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・ 「数量関係」の領域は、全道より低く、全国と比べ相当低く課題があります。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
図形	1 (2) 平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	58.5%	55.4%	54.6%
数と計算	4 (1) 四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	50.0%	49.9%	52.6%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数量関係	2 (2) 示された情報から基準量を求める場面を捉え比較量と割合から基準量を求めることができる	20%増量した商品の内容量が480mlであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	2.7%	8.9%	13.1%
数と計算	4 (3) 概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる	目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く	18.0%	19.8%	22.3%
量と測定 図形	5 (1) 長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる	示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く	10.5%	12.2%	12.5%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 比較量と割合から基準量を求めることに課題があります。問題を丁寧に読み解き、図や数直線に表して分かりやすく捉えるように指導する必要があります。割合が日常生活の様々な場で用いられていることを気付かせ、理解させていく必要があります。
- ・ 条件を変更した場で示された面積を求めることに課題があります。図形の問題では図形の特徴をよく理解し、その上で公式により確実に計算して求めることができるようにすることが大切です。図形をよく観察し、その位置関係に着目し課題解決ができるように指導していく必要があります。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

・ 「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の64.5%、全国の66.6%に対して石狩市は58.5%で、全道より6.0ポイント、全国より8.1ポイント低くなっています。

・ 「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.1%、全国の93.1%に対して石狩市は91.1%で、全道より1.0ポイント、全国より2.0ポイント低くなっています。

・ 「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の77.7%、全国の81.0%に対して石狩市は75.1%で、全道より2.6ポイント、全国より5.9ポイント低くなっています。

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校理科】

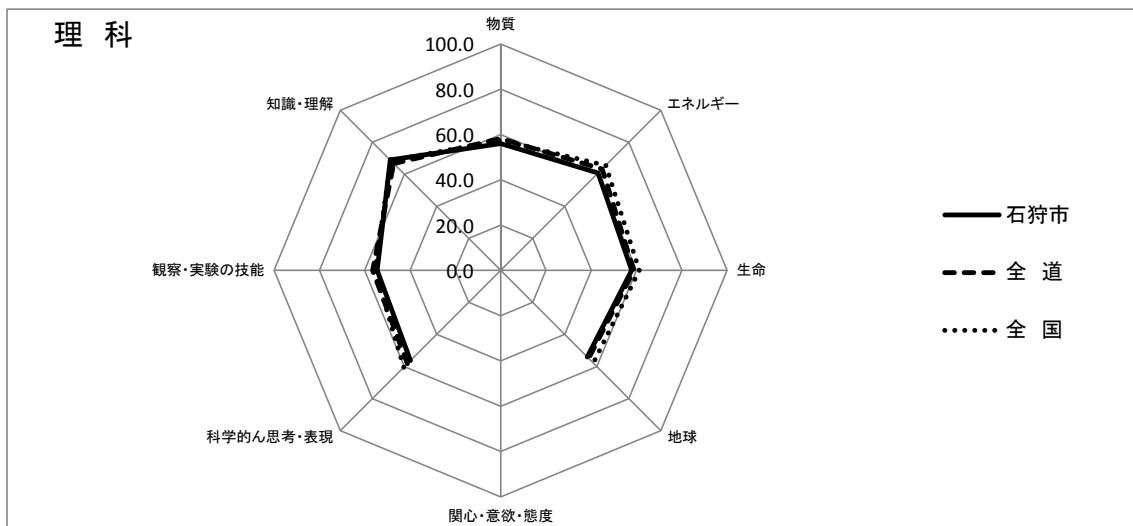
□ 正答率の状況 □

	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	14.6問/24問	60.8%
全道(公立)	14.2問/24問	59.3%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上)	同様	ほぼ同様(下)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○				☆		○		
全国 : ☆									

相当高い … 7ポイント以上の範囲
 高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内
 やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内
 ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内
 同様 … ±1ポイント未満の範囲内
 ほぼ同様… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
 やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
 低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
 相当低い … -7ポイント以下の範囲

□ 理科 領域別正答率比較グラフ □



□ 理科の概要 □

- 市内各校の平均正答率は全道平均・全国平均とほぼ同様(下位)の結果となりました。平成24年度と比べると全国平均との差が若干縮まりました。
- 領域別正答率では、4領域(物質・エネルギー・生命・地球)とも全道平均と同様又はほぼ同様の傾向にあります。
- 無解答率については、市内各校の平均が3.6%で、全道(3.3%)・全国(3.2%)と同様の傾向になりました。

理科

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうか、活用することができるかどうかをみる、次に示す問題で構成されています。

- ・メダカの雌雄を見分ける方法を理解する。
- ・顕微鏡の適切な操作方法を身に付ける。
- ・水蒸気は水が気体になったものであることを理解する。
- ・月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解する。
- ・植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述する。
- ・打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析する。
- ・水の温まり方について、予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想する。
- ・電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善する。
- ・設問数は24問です。

【各領域の傾向】

- ・「物質」の領域は、全道・全国と比べほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「エネルギー」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・「生命」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国と比べやや低い傾向を示しています。
- ・「地球」の領域は、全道と同様で、全国と比べやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
エネルギー	1 (5)ア 電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる。	電磁石の働きを利用した振り子が、左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ	71.5%	70.5%	72.7%
生命	2 (1) メダカの雌雄を見分ける方法を理解している	メダカのおすめすを見分けるための観察する部分を選ぶ	84.0%	74.9%	78.0%
物質	3 (4) メスシリンダーの名称を理解している	示された器具（メスシリンダー）の名称を書く	84.0%	82.7%	70.7%
地球	4 (5) 水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く	61.3%	56.8%	58.5%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
生命	2 (3) 顕微鏡の名称を理解している	示された器具（顕微鏡）の名称を書く	48.9%	58.5%	61.6%
物質	3 (6) 析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く	16.2%	24.3%	28.9%
地球	4 (2) 月は一日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることは理解している	夕方にみられる月の形と場所を選ぶ	48.5%	52.6%	56.1%

（指導の改善にあたって）

・顕微鏡の名称や操作方法の理解に課題が見られます。顕微鏡を操作できるようになるには、顕微鏡に触れる機会を多くすることが大切です。授業はもとより理科室や教室などに常時顕微鏡を置き、いつでも児童が使用できる環境づくりが必要です。

・温度の変化に伴って変わる物質の析出する量をグラフを基に考察し分析することに課題があります。物が水に溶ける量と温度に関係があることを理解させるには予想や考察を数値と結びつけて考えさせたり、グラフを基に溶ける量と温度の関係を考えさせたりしながら、関心をもって実験に取り組みさせることが大切です。実験ではじっくり観察場面を設定し、実感をもって理解させる必要があります。

・月の動きに関する理解に課題があります。月の観察には、複数回観察する機会を設定し、観察を通して身に付け理解させることが大切です。観察では丁寧に記録することの大切さを指導し、記録をもとに話し合う機会を持ちながら、理解させる必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の85.6%、全国の83.5%に対して石狩市は84.5%で、全道より1.1ポイント低く、全国より1.0ポイント高くなっています。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の86.3%、全国の86.9%に対して石狩市は84.0%で、全道より2.3ポイント、全国より2.9ポイント低くなっています。
- ・「理科の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の88.9%、全国の87.9%に対して石狩市は88.3%で、全道より0.6ポイント低く、全国より0.4ポイント高くなっています。